

# 納付金・市町村標準保険料率算定のイメージ

令和7年度第2回  
千葉県国民健康保険運営協議会  
資料1-10

保険給付費（医療分）  
県総額：3,732億円

前期 高齢者 交付金	公費等	納付金 算定 基礎額
1,569 億円	1,105 億円	1,058 億円

A市  
納付金

90 億円
----------

B市  
納付金

1 億円
---------

C市  
納付金

2 億円
---------

...

① 保険給付費から前期高齢者交付金や公費等を控除して  
納付金算定基礎額を算定。

② ①を所得や人数のシェア、医療費水準に応じて  
各市町村に配分し、各市町村の納付金を算定。

A市

90 億円	+	A市にかかる経費 7 (保健事業など) 億円	
	-	A市が受ける費用 15 (保険者支援制度など) 億円	
=		A市 82 保険料総額 億円	

82 億円	÷	A市の 標準的な 90 収納率 %
----------	---	-------------------------

A市 調整後 91 保険料総額 億円
--------------------------

91億円

51億円	→ 応能割賦課総額
40億円	→ 応益割賦課総額

〈市町村標準保険料率〉			
所得割率 = 応能割賦課総額 ÷ 所得総額			
( 7.87% )	÷	51億円	÷ 648億円 )
均等割額 = 応益割賦課総額 ÷ 被保険者総額			
( 47,600円 )	÷	40億円	÷ 8.4万人 )

③ ②に市町村ごとの経費や補助金等を加減算し、  
保険料総額を算出

④ ③に標準的な収納率を割り戻し、  
調整後保険料総額を算出

⑤ ④を各市町村の所得や人数のシェア  
に応じて分割した上で、それぞれ  
標準保険料率を算出

# 納付金の各市町村への配分イメージ（上記②の配分方法）

$$c = C \times \{1 + \alpha \cdot (\text{年齢調整後の医療費指数} - 1)\} \times \{\beta \cdot (\text{所得のシェア}) + (\text{人数のシェア})\} \div (1 + \beta) \times \gamma$$

c：各市町村ごとの納付金基礎額

C：納付金算定基礎額

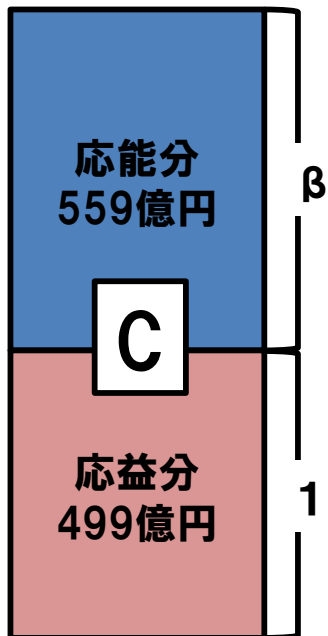
α：医療費指数反映係数（ $0 \leq \alpha \leq 1$ ）

β：全国平均と比較した県の所得水準（全国平均のとき  $\beta = 1$ ）

γ：総額をCに合わせるための調整係数

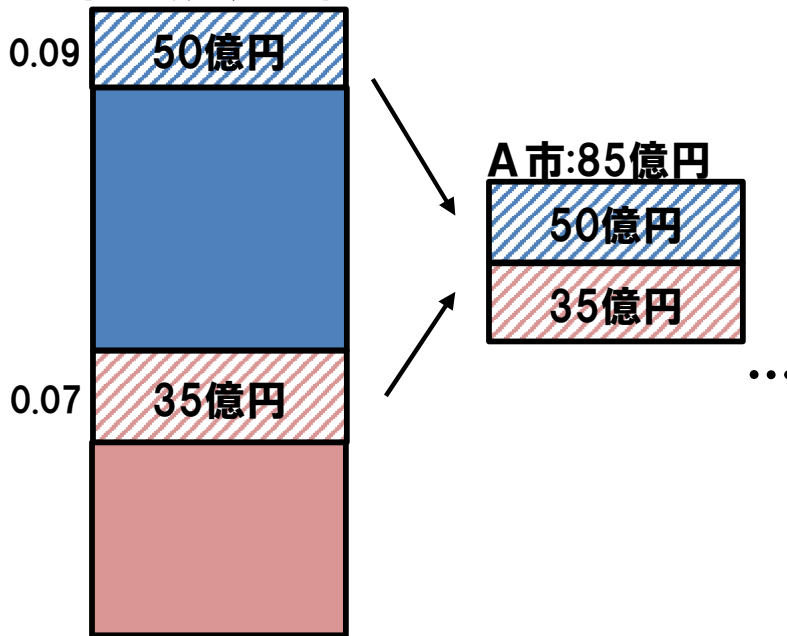
	県	A市	...
所得総額 (シェア)	7,268億円 (1)	654億円 (0.09)	
人数 (シェア)	105万人 (1)	7.3万人 (0.07)	
年齢調整後の 医療費指数	0.92	0.93	

県総額:1,058億円

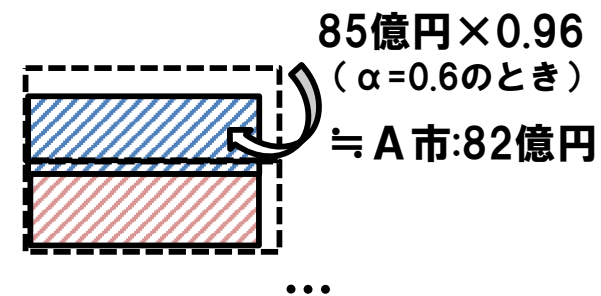


① Cをβ:1に配分  
例)  $\beta = 1.12$

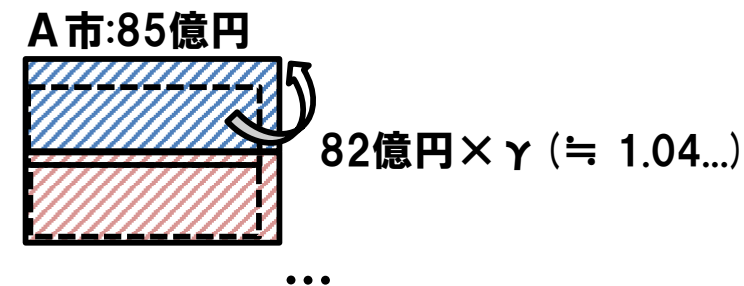
県総額:1,058億円



② ①のうち、応能分を所得のシェア、  
応益分を人数のシェアに応じて各市町村に配分



③ ②に  $\{1 + \alpha \cdot (\text{年齢調整後の医療費指数} - 1)\}$   
を乗算



④ ③の各市町村合計がC（1,058億円）と等しく  
なるよう、全市町村の③にγを乗算